

6 環境教育と持続可能な開発目標（SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成13年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016(平成28)年から2030(令和12)年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、各国・地域・地球規模でアジェンダの実施のための行動を起こすことが求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsのロゴ（日本語版）（国際連合広報センター）

また、これらの17の目標は独立しているものではなく、統合され不可分のものであり、持続可能な開発の三側面である、経済、社会及び環境を調和させるものとなっています。

本指導資料では、SDGsの達成に貢献するものとして、ESDを位置付けています。



SDGsカラーホイール

では、環境教育で対象とする主な内容と、それぞれの持続可能な開発目標（SDGs）は、どのように関係付けることができるでしょうか。本指導資料の「Ⅱ 実践編」で掲載している13の指導例では、各単元（題材）と主なSDGsとの関連について、以下のように示しています。

【各単元（題材）と主なSDGsとの関連の例】

<例1> 小学校社会科 第4学年「ごみの処理と利用」

○主なSDGsとの関連



廃棄物の衛生的な処理や資源の有効利用は、人々の生活環境の向上や地球環境保全等の観点で、（目標3）有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による疾病の減少、（目標12）持続可能な生産消費形態の確保、（目標13）気候変動及びその影響の軽減につながっていく。

<例2> 中学校技術・家庭科（家庭分野）

第3学年「環境や社会を変える消費生活を考えよう」

○主なSDGsとの関連



（目標12）3Rを実践するなどして、持続可能な社会を目指した消費行動と生産活動を行い、（目標14）海洋と海洋資源の保全など、海の環境や、（目標15）陸域生態系、森林、生物多様性など、陸の環境を自らの行動で守り、豊かな生活を実現することにつながっていく。

このように、各単元（題材）の指導内容が、どのSDGsにつながっていくのか、まずは指導する教員が整理しておくことが必要です。その上で、指導を通して、教員が児童・生徒に学習内容とSDGsとの関連を示したり、学習の振り返りの場面などで、児童・生徒自身に学んだことがどのSDGsの達成につながっていくのかを考えさせたりすることにより、児童・生徒のSDGs達成への意識を高めていくことができます。